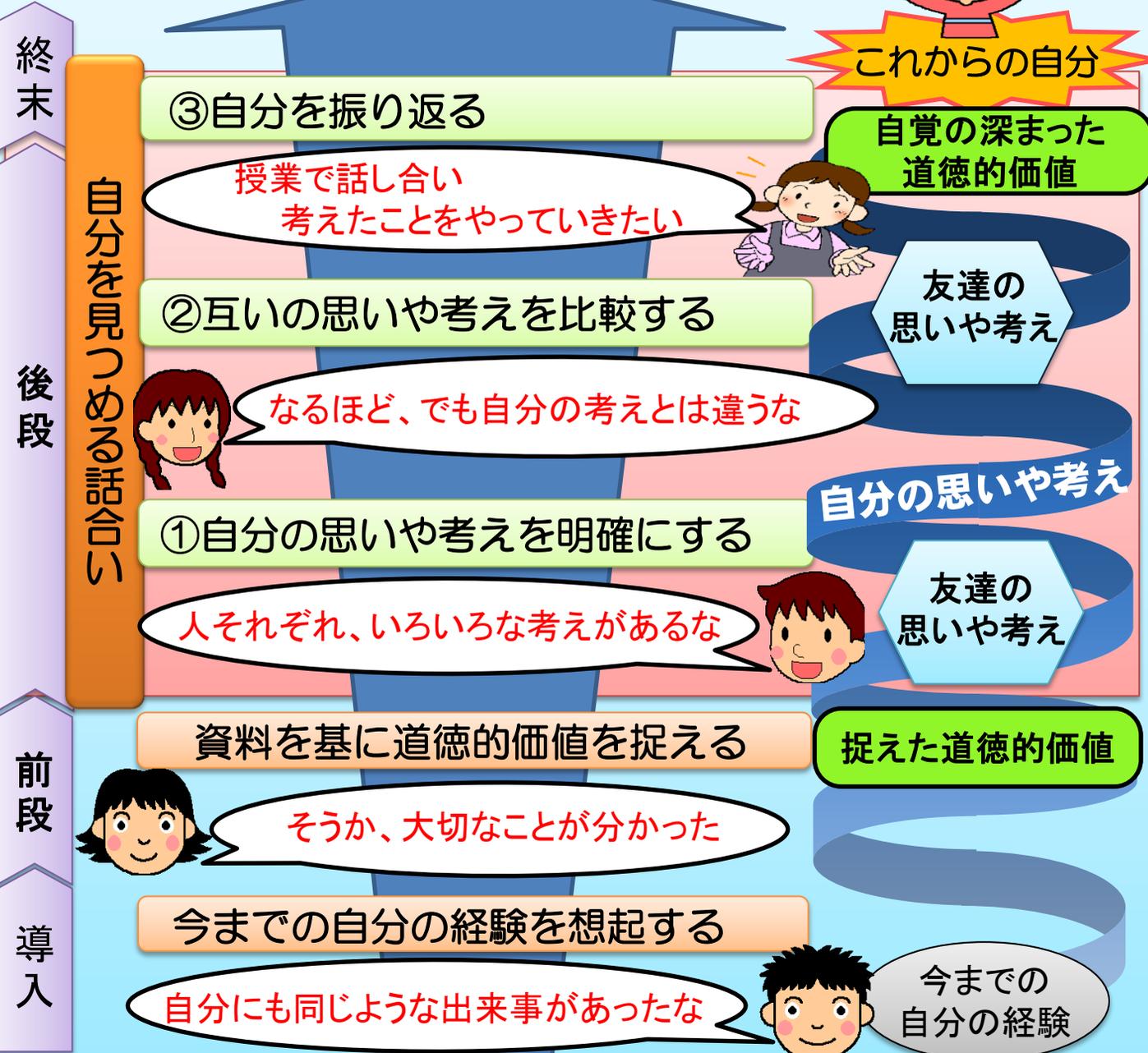


道徳的価値を自分のこととして考える授業構想の工夫 —自分を見つめる話し合い活動を通して—

長期研修員 川田 憲廣

授業構想図

自分を見つめ、これからの生き方についての考えが深まった児童



教師の課題



主人公の心情把握に偏った授業になり、児童が自分を見つめる時間を作れない。

日常の課題を自分のこととして考えられず、道徳的行為や習慣につながらない。

児童の実態



①自分の思いや考えを明確にする

教師の意図ある発問

発言を基にグループに分類

整理して板書し、可視化

互いの多様な思いや考えに気付く

②互いの思いや考えを比較する

互いの思いや考えを比較する発問

自分では気付かない様々な価値観を考える

③自分を振り返る

自分の変容した点や友達の考えのよさを考える発問

これからの自分の生き方を考える発問

成長を実感し、これからの自分の課題や目標を見付ける

【授業での板書】

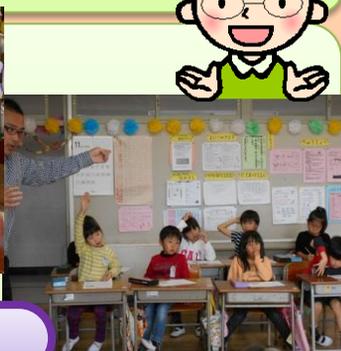
分類した思いや考え

<p>お互い</p> <p>うれしくなった 楽しくなった いい気持ちになった</p>	<p>相手</p> <p>よろこんでいた うれしそうだった えがおになった</p>	<p>自分</p> <p>うれしい 楽しい よろこんだ</p>
<p>どうなるの</p> <p>もつとうれしくなる もつと仲よくなる 他の人にもしてあげたい</p>	<p>自分</p> <p>いっしょにうれしい やつてあげてよかった いい気持ち</p>	<p>相手</p> <p>うれしいと思ってる ありがとうと思ってる だれかにやつてあげたい</p>

親切にすると、だれが、どんな気持ちになるでしょうか？

思いや考えの比較

自分を見つめる話合い



児童の感想

友達の考えを聞いて、これからは誰にでも、同じように親切にしたいと思った。

成果 今までの自分を振り返ることで、自己理解が図れ、これからの自分の生き方を考える意欲につなげることができた。

課題 自分を見つめる話合いでは、これからの課題や目標を見付けるため、自分の成長を実感できるようにする必要がある。

提言 今までの自分を振り返る時間を授業の最後に設け、児童が自らの変容を捉えることができる授業を目指しましょう。